

# 大安寺報

## 名句に学ぶ

### 第二回

# 和敬清寂

わけい せいじゃく

お茶をやっておられる方にはお馴染みのこの言葉。この言葉は、茶道の祖である村田珠光の提唱とされ、千利休の茶の精神をあらわす、四つの規範です。

「和」は、お互いに心を開いて、一つに融けあうこと。

「敬」は、お互いの存在や、その尊厳を認めること。

「清」は、目に見える清らかさだけでなく、心もまた、清らかになること。

「寂」は、心を清らかにすることに、より、動じない、穏やかな心でいること。

この心のもと、「二期一会」(『大安寺報』第三号に掲載)の精神で、お点前をし、また、お茶をいただくことが大切とされているのです。

しかしながら、この「和敬清寂」。茶席だけでなく、普段の人間関係においても大切ではないでしょうか。

「和」は人間関係の基本。お互いに

心を閉じていては、人間関係は始まりません。しかしながら、「敬」の心を忘れ、お互いに慣れ合う関係になつてしまつては、トラブルの元です。人間関係を作り、保つていくにあたり大切なこの二つの心。これらの心で人と相対していくことで、必ずや、貪り・怒り・愚痴に囚われない、「清らかな心」「動じない、静かな心」で人生を送ることができるようです。

また、この「和敬清寂」は、人間と自然との関係においても大切なことです。自然と自分を切り離すのではなく、一体としてとらえる。また、自然によって、自分の身体が生かされていくことを実感する。このことにより、清らかな心、動じない穏やかな心で、生きることができるようです。



秋は月や紅葉など、自然がとりわけ美しい季節。「和敬清寂」の心で、

身の周りの自然を見つめ、自然の声に耳を傾け、自然を感じてみてはいかがでしょうか。

大安寺ホームページ  
掲載内容のご紹介

## 仏事 Q&A 第三回

◆自宅での参りの作法は？

※以下はあくまで一般的な例です。  
①お仏壇にお水、お茶、お仏飯をお供えし、おろうそくに火をつけ、み仏と自分とがひとすじに結ばれるところにお線香を立てます。

②お仏壇の前に正座をして心を鎮め、深呼吸をして息をととのえます。

③お経本を押し載せて念じます。(念じる内容は各自自由です)

④経本を置くか、または手に持ったまま、「鈴」(りん)を3回叩き、4回目を押さえます。

⑤開経偈をお唱えする。

⑥「般若心経」「修証義」などをお唱えする。(鈴を鳴らす所は、お経本の指示に従ってください)

⑦最後に、普回向をお唱えする。

⑧おろうそくを消し、清々しい気持ちでその場を去る。

朝夕のおまいりは、坐禅をすることと同じ功德(くどく)があります。できる限り毎日おつとめしましょう。

■大安寺ホームページ  
<http://www.daianji.jp>  
■大安寺携帯サイト  
<http://keitai.daianji.jp>



携帯サイト QR コード

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県総持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師  
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏(なむしゃかむにぶつ)